

専 攻	大 講 座	教育研究分野	指 導 教 員	教 育 研 究 内 容
口腔生命科学	口腔健康科学	微生物感染症学	寺 尾 豊 Tel 2838 e-mail terao@dent.	誤嚥性肺炎ならびに口腔感染症（う蝕・歯周病）の起因細菌，および宿主免疫系を分子レベルで解析し，感染症の発症と重症化メカニズムを解明する研究を推進する。また，それら分子解析に基づく感染制御法ならびに予防法を目指す創薬研究のほか，医工連携による新しい消毒装置の開発研究も展開する。
		生体組織再生工学	泉 健 次 Tel 2850 e-mail izumik@dent.	培養口腔粘膜作製をはじめ，様々な上皮組織に対応可能な，魚うろこコラーゲン足場製材の開発。口腔粘膜上皮細胞の品質管理やニッチ研究，培養真皮開発など臨床応用に至るまでの再生医療を担うトランスレーショナルリサーチ。再生医療に影響を及ぼすメカノバイオロジカルな研究。さらに，口腔がん研究に応用できる3次元インビトロモデルの構築。加えて，石こうの硬化膨張圧に影響をおよぼす各種因子と硬化時間測定法に関する教育研究を行う。
		予防歯科学	小 川 祐 司 Tel 2857 e-mail ogahpre@dent.	「口腔保健医療に対応した国際イニシャチブ人材育成プログラム」の構築に向けた先駆的教育課程を試行する。幼児・小児期のう蝕予防，成人の歯周病予防，高齢期の喪失歯予防モデルの確立，疾患の発生前診断，地域診断，口腔と全身の健康の因果に基づくリスクファクターアプローチに関する研究を展開する。また，口臭症の臨床的教育研究を行う。
		う蝕学	野 杵 由 一 郎 Tel 2863 e-mail noiri@dent.	歯質や歯の保存を通じて健康寿命を延伸するという概念のもと，歯科保存学の領域中，う蝕，歯髄疾患及び根尖歯周組織疾患の病態・病因論と治療法に関するトランスレーショナルリサーチを行う。特に，免疫学的・細菌学的病因論，修復・再生機構，生体材料の物性と生体適合性，ならびに先端的治療法の開発評価に関する教育研究を行う。
		小児歯科学	早 崎 治 明 Tel 2908 e-mail hayasaki@dent.	小児および障害児者における歯科臨床的観点から， 1）顎口腔機能（摂食，咀嚼，嚥下，呼吸，発声など）， 2）食具（スプーン，箸など）の使用法， 3）口腔衛生にかかわる習慣（歯磨きなど）の解析を中心とした教育研究を行う。
		生体歯科補綴学	未定 問合せ先： 加 来 賢 Tel 2897 e-mail kakum@dent.	デンタルインプラントの治療成績向上，確実な骨増生法の確立，歯根膜の再生，力と生体反応の関係解明，骨髄細胞の局所への動員機構解明，歯科金属アレルギーの疫学的調査および基礎的研究，生体と歯科材料との関わりでの解明，垂直歯根破折の治療法確立などを目的として，歯科補綴学に関連する生体変化の生物学的背景について教育研究する。
		顎顔面口腔外科学	富 原 圭 Tel 2883 e-mail tomihara@dent.	口腔癌の診断と治療において最も重要な学問の一つが臨床腫瘍学である。臨床腫瘍学をより深く理解する上で，その知識の背景となる腫瘍生物学，腫瘍免疫学，再生医学，データサイエンスなどについて口腔癌をテーマに基礎および臨床的な教育・研究を行う。
	摂食環境制御学	口腔解剖学	大 峽 淳 Tel 2816 e-mail atsushiohazama@dent.	顎顔面における様々な器官の発生メカニズムを分子レベルで解明する研究を通して，再生療法や，各種症候群を含む先天異常の生前診断や生前治療の確立に繋がる研究を推進する。基礎医学的側面を臨床的な観点に連動させた教育研究を行う。
		口腔生理学	山 村 健 介 Tel 2821 e-mail yamamurak@dent.	咀嚼・嚥下をはじめとする口腔の運動および口腔顎顔面領域の痛覚を制御している末梢及び中枢性神経機構について神経生理学的な観点から教育研究を行う。これらを基にストレスが内因性疼痛制御機構にもたらす影響や嚥下誘発を促進する手法など臨床につながる研究に発展させる。
		口腔生化学	照 沼 美 穂 Tel 2827 e-mail mterunuma@dent.	口腔および口腔機能や食欲などを制御する脳の機能制御機構を細胞から個体レベルで解明するために，生化学的・細胞生物学的ならびに動物行動学的観点から教育研究を行う。それにより疾患の原因究明と治療法の開発を目指す。
		歯周診断・再建学	多 部 田 康 一 Tel 2871 e-mail koichi@dent.	口腔疾患の一つである歯周病における免疫遺伝子学的・分子生物学的な新しい診断法を開発し，高度先進的な歯周組織再生・再建治療法，最新の治療評価系に関する教育研究を行う。

専 攻	大 講 座	教育研究分野	指 導 教 員	教 育 研 究 内 容
		歯科矯正学	丹 原 惇 Tel 2905 e-mail nihara@dent.	各種不正咬合の原因、診断、治療法に関する基本事項について教育するとともに、骨格性および歯性の不正咬合の成立機序について考察し、矯正学的対処法と治療による形態的・機能的变化について教育研究を行う。顎変形症・口唇裂口蓋裂といった集学的治療に係わる教育、臨床研究も行っている。
		摂食嚥下リハビリテーション学	井 上 誠 Tel 0733 e-mail inoue@dent.	加齢や各疾病に伴う摂食嚥下機能障害を追求し、それぞれの病態解明とともに、診断・治療法について教育研究を行う。嚥下障害、味覚障害・口腔乾燥症に関わる生理学・薬理学・生化学をベースとした基礎ならびに診断・治療法に関する臨床的教育研究を行う。
		高度口腔機能教育研究センター	前 川 知 樹 Tel 2815 e-mail maedat@dent.	口腔科学領域の先端的研究テーマを学際的アプローチから追求する。特に顎顔面口腔領域の神経科学的諸問題、末梢神経再生機構、口腔疾患における炎症・免疫・骨代謝の関与と口腔の老化メカニズムを解明し、基礎シーズの臨床応用につながる教育研究を行う。
口 腔 生 命 科 学	顎顔面再建学	硬組織形態学	大 島 勇 人 Tel 2812 e-mail histoman@dent.	歯や骨などの硬組織の形成・発達・維持・再生現象等に関する制御機構を解明するため、硬組織の構造と機能を肉眼レベルから組織・細胞レベルさらに発生生物学的観点から形態学的手法を用いて教育研究する。
		口腔病理学	田 沼 順 一 Tel 2832 e-mail tanuma@dent.	口腔領域に発生する口腔がんなどの様々な疾患の病理組織学的発生機序を解明するため、分子病理学的立場から、病態研究方法の導入法並びに思考方法について教育研究する。
		歯科薬理学	未定 問合せ先： 柿 原 嘉 人 Tel 2845 e-mail kakihara@dent.	顎口腔領域における腫瘍発生のメカニズムを解明することで、口腔癌を含む腫瘍一般の新しい薬物治療を創出することを目指し、歯科薬理学の教育研究を行う。
		包括歯科補綴学	堀 一 浩 Tel 2889 e-mail hori@dent.	義歯治療のプロフェッショナルとして、咀嚼・嚥下・構音障害の診断と治療法を教育するとともに、より効率的な手法や機器の開発研究を行う。また、医学・工学・食品科学分野とのコラボレーションにより、「食べる」ことに関わる先端的研究を行い、その成果を広く超高齢社会で応用できる人材を育成する。
		組織再建口腔外科学	未定 問合せ先： 富 原 圭 Tel 2883 e-mail tomihara@dent.	顎顔面口腔領域に発生する様々な疾患の診断ならびに治療に関する教育研究を行う。とくに先天異常、顎変形症などの発育異常、及び腫瘍切除後の組織欠損などに対する形態的、機能的回復に関連する組織の再生・再建ならびにその評価法について教育研究を行う。
		顎顔面放射線学	林 孝 文 Tel 2914 e-mail hayashi@dent.	顎顔面口腔領域に発生する種々の疾患の画像診断について、エックス線やCT, MRI, 超音波診断、核医学などの先端技術を用いたエビデンスに基づいて導入・応用し、患者にとって最善の結果をもたらす新規の診断システムの開発・普及について教育研究を行う。またがん治療に伴う有害事象に対する口腔管理の有効性についても教育研究する。
		歯科麻酔学	問合せ先： 岸 本 直 隆 Tel 2972 e-mail kishimoto@dent.	動物や細胞を用いた基礎研究を通じて、三叉神経損傷に起因する神経障害性疼痛の発生メカニズムを解明するとともに、末梢神経の良好な再生に関する研究を推進し、将来的な歯科臨床への応用を目指す。また歯科麻酔学に教育工学を融合した新しい「歯科患者の急変対応教育法」の開発を目指す。
		歯科臨床教育学	藤 井 規 孝 Tel 0990 e-mail norisuke@dent.	歯科臨床教育の中でも、特に技術教育に重点をおいて、より効率的かつ効果的な教育実践方法の開発を目指す。口頭や文章では教示困難な歯科治療技術のポイントを科学的に解明し、客観性と再現性を備えた教育技術の実現に関する研究を行う。